

## 2. 平成27年度第2回運営協議会以降のセンター活動について

### 第25回UNESCO-IHP研修コース

#### 「気候変動下における水災害リスクマネジメント」実施報告

京都大学防災研究所水資源環境研究センター 田中茂信

平成27年11月30日～12月11日の日程で、京都大学防災研究所において、第25回UNESCO国際水文学計画短期研修事業（UNESCO-IHP研修コース）を実施した。今回は、「Risk Management of Water-related Disasters under Changing Climate」（気候変動下における水災害リスクマネジメント）をテーマに、1) 気候変動による流域スケールでの水循環の変化の評価に関する最新の知見を獲得すること、2) 気候変動による水循環への影響の評価手法を学び演習すること、3) 河川流域スケールでのリスクマネジメント手法の代替案について議論し理解を深めることを目的として研修コースを実施した。

研修コースの内容は、3つの基調講演、11項目の講義、6項目の室内演習、野外実習、現地視察、および国際協力機構（JICA）からの短時間授業を含む23の授業から構成され、水災害リスクマネジメントに関する幅広い分野を網羅するものとなるよう努めた。基調講演では、フランス・ニース・ソフィアアンティポリス大学、水災害・リスクマネジメント国際研究センター（ICHARM）、ユネスコジャカルタ事務所からそれぞれ講義を行って頂いた。講義では、学内の教員に加えて、東北大学、愛媛大学および東京大学から講師をお願いし、気候変動の影響評価から適応のための水工施設運用の計画・設計に至るまで、気候変動下の水災害リスクマネジメントについてできる限り多角的な知見を提供できる内容とした。基調講演および講義については、慶応大学のSchool on Internet Asia (SOI Asia)を通じて、Webでの配信を行った。また、室内演習では、気候変動の水循環への影響評価や適応策の検討に必要な水文確率評価やデータ解析、流出・氾濫解析およびダム操作最適化などの実習を行った。野外実習では、水資源機構日吉ダム管理事務所を訪問し、現地を視察するとともに、平成25年台風18号による水害時のダムの対応を含む、ダムによる水災害管理の実務や課題に関する現地職員との意見交換を行った。加えて、保津川および桂川において、レーザー測量計を使用した河道幅の測量実習や、河道断面形状の測量方法についての実習を実施した。現地視察では、天ヶ瀬ダム、南郷洗堰および琵琶湖博物館を訪問し、琵琶湖・淀川流域の河川環境や上下流問題などについて知見を深めた。講義テキストについては、研修コースにおいて印刷版を配布するとともに、電子版をWebに公開し、受講生がダウンロードできるようにした。

本研修コースには、アジア・アフリカ諸国を中心とした11か国から、京都大学に在籍している留学生11名を含む14名の参加があった。講義・演習においては積極的に質疑を行うなど、受講生は本研修コースに終始熱心に取り組んだ。本研修コースは、水災害リスクマネジメントに関する重要な知識や技術の学びの場となると同時に、受講生同士や講師・受講生間の交流を深める貴重な機会にもなった。受講生の作成したレポートからは、本研修コースで得られた知識や経験を各国における実務やこれからのキャリアに活かそうという

決意が示されていた。そのほか、改善を希望する点としては、演習の割合を増やしてほしいという意見や、復習のため講義のスライドを後から見られるようにしてほしいとの意見が寄せられた。

最後に、本研修コースを大きな事故もなく無事に終了させることができたのは、講師の皆様、名古屋大学、京都大学、ユネスコジャカルタ事務所の関係スタッフ一同ならびに各方面でご協力いただいた文部科学省、UNESCO-IHP事務局の方々をはじめとする関係者の皆様のご尽力の賜物である。ここに深謝申し上げる。

